

古事記1300年紀

古事記のふるさとと田原本

「語り部」

ひえだのあれ
めたじんじや
稗田阿礼と賣太神社

▼稗田の環濠集落



▲賣太神社

古事記の編纂に太安万侶とともに大きく関わったもう一人の重要な人物がいます。「語り部」として古事記を暗誦し、太安万侶に語り伝えたと言われている稗田阿礼です。阿礼は7世紀後半に舍人として宮中に仕えた役人でした。古事記序文によると、天武天皇が稗田阿礼に命じて帝紀・旧辞を暗誦させ、それを太安万侶が編纂し筆録して元明天皇に献上したといわれています。稗田阿礼とはどんな人物であったのかについては古事記序文に書かれています。ことしか分かっていません。ただ、記憶力に優れた優秀な役人であったであろうことは、序文からうかがえます。名前の響きから女性というイメージもありますが、舍人という官職は男性を表しています。また、稗田氏は天鈿女命を祖とする猿女氏の一族であり、稗田に居住していたといわれています。

現在、大和郡山市稗田町にある賣太



イメージ：奈良県ホームページ「記紀・万葉でたどる奈良」より

神社は、稗田阿礼を主祭神として祭っています。そして毎年8月16日には、稗田阿礼の遺徳を偲んで「阿礼祭」が執り行われます。賣太神社は、昭和16年の古事記撰上1230年を記念して、太安万侶を祭る小杜神社とともに境内が拡張整備され、社殿を新築し昭和19年に今の姿になりました。また稗田は田原本町の保津とともに環濠集落として有名です。

そして今も「語り部の里」として童話や民話が語り継がれています。小杜神社と並び称されることの多い賣太神社にぜひお参りしてみませんか。

町観光協会事務局

今月の表紙

灯籠に火を灯す。きれいな光だね。



7月7日に多神社で行われた太安万侶祭。午後7時ごろ、境内に「天の川」をイメージして並べられた灯籠に火を灯す灯火会が行われました。当日は、子どもが中心となり、灯籠に火を灯していきました。

時間が経ち、辺りが薄暗くなると、境内は灯籠の温かい光で彩られ、幻想的な世界が広がっていました。

編集後記

■7月17日・18日の2日間、広報紙作成に関する研修を受けてきました。写真の撮り方や見栄えの良いレイアウト、読みやすい文章の書き方など多くを学ぶことができました。会場には他市町村の広報紙が置いてあり、これらを読むことも良い勉強となりました。研修で学んだことを生かし、より魅力ある広報紙作りに取り組んでいきます。昂

■太安万侶祭を取材していると、境内に七夕飾りがあり、町内幼稚園・保育園児の願いが書かれた短冊が結ばれていました。8月からは、町内幼稚園・保育園児が描いた「桃太郎の絵」が図書館で展示されます。(21ページ参照)このように、幼いころから地域の歴史に触れる機会が増えると、まちへの愛着が一層深まるのではないのでしょうか。永